

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組み 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～大阪府～

目的

- ・英語を用いて将来にわたり活躍できるよう、大阪の子どもたちの英語力を向上させる。
- ・そのため、「授業改善推進リーダー研修」受講者（リーダー教員）を活用し、府内の全中学校の英語の授業を改善する。

取組の内容

- ブリティッシュ・カウンシル、大阪府教育センターによる年間5回の中学校英語授業改善推進リーダー研修の実施（H28～H30）により府内に240名の授業改善推進リーダーの誕生。
- 授業改善推進リーダーによる各市町村への普及研修の実施。
- 研修協力校における公開授業及び研究協議の実施。

成果②

「平成30年度英語教育実施状況調査」の結果が大きく向上した。 ※政令市除く

	H30実績	H29実績	ポイント比較
求められる英語力を有する生徒（中3生）の割合	45.3%	39.5%	+5.8p
英語担当教員の授業における英語使用状況	95.4%	77.4%	+18.0p
「CAN-DOリスト」の公表状況	86.1%	72.9%	+13.2p
「CAN-DOリスト」の達成状況の把握の状況	82.6%	78.8%	+3.8p

※英語による発話の質や内容、Can-Doリストの質の向上が課題

成果①

「授業改善推進リーダー研修」受講後のアンケートから（H30.1月）

＜研修受講による教員の変容＞

- 「英語を用いて何ができるようになるか」を意識して授業をするようになった 79.2%
- 授業中の発話量が増えた 87.5%
- 英語の授業づくりについて、他の英語担当教員と話し合う機会が増えた 69.4%

＜リーダー教員在籍校の生徒の変容＞

- 自ら英語を使おうとするなど、生徒の英語学習に関する意欲が向上した 83.3%

成果の波及・周知

- 授業改善推進リーダー研修のまとめを府教育庁で作成、各市町村に配付。各市町村での普及研修で活用（8月、9月、11月）
- 各市町村において、授業改善推進リーダーによる普及研修の実施（各市町村平均4.4回実施 H30.3月実績 H31も同回数程度）
- 研修協力校の取組みを他校へ波及させるための市の体制づくりについて、府内市町村教育委員会外国語教育担当指導主事会にて情報提供（H31.9月）
- 研修協力校による公開授業の実施（H30.12.10）
教員、指導主事あわせて約100名が参加

今後の課題・方向性

- ◆ 府内に誕生した240名の授業改善推進リーダーを活用、研修協力校を拡大。コミュニケーションの場としての授業のあり方やより効果的なパフォーマンステスト、Can-Doリスト等について研究。普及研修を府内のより広域で展開。
- ⇒ 規模・課題ともに異なる新たな研修協力校を配置し、授業改善に係る取組みを強力に推進するとともに、その成果を府内へ発信する。
- ⇒ 市町村教育委員会外国語担当指導主事会だけでなく、府英語フォーラム（H32 2月開催予定）において、研修協力校の取組みの報告を行い、各市町村に更なる普及を図る。

現状の課題と課題解決のための手立て

- | | | | | |
|-----------|-------------------------------|---|------------|--|
| 課題 | ・4技能のバランスよい育成
・受け身の授業姿勢の改善 | ➡ | 手立て | ・生徒が英語を話す活動を充実させ、評価のためにスピーキングテストを実施
・教員による説明時間を短縮し、生徒がより主体的に学べるように授業を工夫 |
|-----------|-------------------------------|---|------------|--|

具体的な取組内容

- ・スピーキングテストの内容や実施方法を学年間で交流し、毎月実践する。
- ・英文を例示する際は端的な表現を用いる。教員の英語使用率を70%以上にする。
- ・毎時間のペア活動。(1分間トーク、絵を用いたQ&A、すらすら英会話、スピーキングテストに向けた練習)
- ・即興でやりとりする力を高めるための授業実践。(Let's Talkでのスキット作成→発表)
- ・発表する力を高めるため、準備、練習して話す授業の実践。
(Use-SPEAK、WRITE、Let's Readでのスキット、スピーチ、サマリーの発表)
- ・宿題内容の自由化。

成果①

- ・大阪府中学生チャレンジテスト(3年生)の英語科の平均点が、他教科と比べ群を抜いて良い結果であった。
(英語を除く4教科を平均した対府比に対して、英語の対府比は、0.03ポイント上回っていた)
- ・単元テスト不合格者の減少
(L①27人→L②23人→L③29人→L④17人→L⑥7人)

成果②

- ・筆記テストで、自信なさそうにしている生徒が、スピーキングテストでは意欲的に取組んだ。
- ・懇談会で「英語が苦手な我が子が、夕食のテーブルでずっと英語を唱えていた」と喜んでいる保護者がいた。
- ・研究授業を重ねる度に、授業展開が工夫され、生徒の活動の充実が図られた。

今後の課題の方向性

- ① スペリング力 (話したことを英文にした時につづりのミスが目立つ)
- ② 英文の組立力 (即興でも、英語で話せる内容が増えてきているが、語順や表現力に課題が残る)
→書く力をつけるための課題の設定の工夫が必要
- ③ 初見の英文を読み解く力
→授業内での時間確保が必要